

年度 2008 学期:前期	曜日・校時:水-Ⅲ	必修選択:選択	単位数:2単位
授業科目/(英語名)	法と政治(戦争のトラウマ) Society and History(Trauma of War)		
対象年次:全学年	講義形態:講義	教室	
対象学生(クラス等):全学部・全学科	科目分類 人文・社会科学		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:安部 俊二 /Eメールアドレス:abe-s@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部新館 6 階652研究室 /TEL:(095)819-2309 /オフィスアワー:水曜 16時から18時まで			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)</p> <p>講義のねらい: 20世紀は「戦争と大量殺戮の世紀」であった。ここでは、人間社会最大のストレスである戦争が人間にもたらす破壊的・長期的な心理的影響とそこからの回復の過程的構造をみる。「新たな戦前・戦中」とも言うべき状況下のわたし達には、単なる過去の問題ではなく現実の問題である。</p> <p>講義方法: ドキュメンタリー映像を中心に文学作品・映画などを《テキスト》に読む。なお講演も含む。</p> <p>講義到達目標: 戦争が人間にたいしてもたらす心理的影響を理解し、戦争への想像力を高めたい。言わば映像による「戦争の心理学」であり、ひとつの新たな戦争へのアプローチの試みである。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)</p> <p>講義内容・展開は世界情勢の変動・受講生の要望によって変更・選択するが、以下の内容を予定。</p> <p>まず、戦争の心理的側面を理解するために、最初に理論編として「戦争トラウマ」論を説明し、次に第一次・第二次世界大戦、戦後六十年の戦争がもたらした(心理的)な戦争後遺症の実態を具体的にドキュメンタリー映像などをもとに検討する。</p> <p>0. 戦争の心理的影響:戦争トラウマ(第1・2・3回)</p> <p>1. 第一次世界大戦とシェル・ショック(第4回)</p> <p>2. 第二次世界大戦の戦争トラウマ(第5・6・7・8・9・10回)</p> <p>① 強制収容所症候群、②沖縄戦—米兵と戦争神経症—、③従軍慰安婦の戦争後遺症</p> <p>④中国戦線—日本兵の戦争神経症—、⑤ヒバクシャ、⑥中国残留日本人</p> <p>3. 戦後60年の戦争の戦争トラウマ(第11・12・13・14回)</p> <p>① 朝鮮戦争、②ベトナム戦争症候群—韓国人帰還兵—、③アフガン戦争症候群</p> <p>④カンボジア内戦、⑤旧ユーゴ紛争—バルカン症候群—、⑥ルワンダ内戦、⑦チャイルド・ソルジャーの戦争後遺症、⑧湾岸戦争症候群、⑨イラク戦争—民営化される戦争—、⑩「9・11テロリスト」収容所</p> <p>4. まとめ(定期試験(90分)を含む)(第15回)</p>			
キーワード	戦争—心理的側面		
教科書・教材・参考書	<p>教科書:デーヴ・グロスマン『戦争における「人殺し」の心理学』(ちくま学芸文庫・2005年)</p> <p>小池政行『現代の戦争被害—ソマリアからイラクへ—』(岩波新書・2004年)</p> <p>参考書:野田正彰『戦争と罪責』(岩波書店・2000年)エイブラム・カーディナー『戦争ストレスと神経症』(みすず書房・2004年)B・ラファエル『災害の襲う時—カタストロフィーの精神医学—』(みすず書房・1989年)ジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』(みすず書房・1996年)小西聖子『インパクト・オブ・トラウマ』(朝日新聞社・1999年)清水寛編『日本帝国陸軍と精神障害兵士』(不二出版・2007年)清水寛編『資料集成 戦争と障害者』(不二出版・2007年)前田哲男『岩波小辞典 現代の戦争』(岩波書店・2002年)井村恒郎『現代病—おのれを失える人々—』(光文社・1953年)S・グレイ『CIA 秘密飛行便 テロ容疑者移送工作の全貌』(朝日新聞社・2007年)</p> <p>教材:教材資料は必要に応じ配布します。</p>		
成績評価の方法・基準等	○定期試験の結果(5割)と毎回鑑賞するドキュメンタリー作品を分析したもの(A4判1枚程度)の結果(5割)を総合して判断します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	開講時に参考文献を紹介します。またその都度関連文献・映像作品を紹介しますから、積極的にふれて理解を深めてください。		